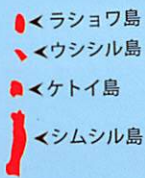


カムチャツカ半島

北千島



中部千島



ウルップ島

択捉(えとろふ)島

国後(くなしり)島  
色丹(しこたん)島

歯舞(はほまい)群島

南千島  
(北方四島)

北海道

約 1,200km



【関連事業】

● 7/18(土) 13:30-16:30

特別展関連講演会「千島・北海道交流史」

講師/テーマ 菊池勇夫氏(宮城学院女子大学教授)/  
「道東・千島におけるアイヌの生活世界の変容  
-日本とロシアの登場がもたらしたもの-」

手塚薫氏(北海学園大学准教授)

「千島列島へ人はいかに居住したか  
-国際千島調査(IKIP・KBP)の成果から-」

● 7/26(日) 11:30-11:30/15:00-15:30

「特別展解説会」講師:角達之助(当館学芸員)

● 9/26(土) 13:30-16:30

講座「北方領土の自然と人びと」

講師/テーマ 小林万里氏(東京農業大学講師)  
「北方領土における自然生態系の変化  
~その現状と問題点~」

本間浩昭氏(毎日新聞記者)

「ヤミ経済からの脱却~知床世界遺産の拡張構想」

【開館時間】: 9:00~17:00(10月は9:30~16:30)

【休館日】: 10/5(月)・10/13(火) 7月~9月は無休

【特別展観覧料】: 一般450(360)円 / 高校生・大学生150(120)円/  
中学生以下無料 ※()内は10名以上の団体料金  
常設展とのセット割引があります。

主催 北海道立北方民族博物館

協力 国立民族学博物館 市立函館博物館 函館市北方民族資料館  
北海道大学附属図書館  
北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園  
根室市歴史と自然の資料館  
東京大学総合研究博物館  
北海道総務部北方領土対策本部  
NPO法人北の海の動物センター (株)HBCフレックス  
川上淳氏(札幌大学) 手塚薫氏(北海学園大学)  
大矢京右氏(市立函館博物館)  
長澤政之氏(小平町教育委員会)

〒093-0042 網走市字潮見309-1 (天都山・道立オホーツク公園内)  
tel.0152-45-3888/fax.0152-45-3889/e-mail. tonakai@hoppohm.org  
http://hoppohm.org



北海道立北方民族博物館  
Hokkaido Museum of Northern Peoples

<指定管理者:(財)北方文化振興協会>

表の写真: 帯(部分)(千島アイヌ/国立民族学博物館蔵)

第24回特別展 環北太平洋の文化IV

千島列島に生きる  
アイヌと日露・交流の記憶

Life & Culture in the Kurils

Memories of Exchange between  
the Ainu, Japanese and Russians

2009.7.18(土)~

10.18(日)

## 千島列島に生きる－アイヌと日露・交流の記憶

千島列島海域は、サケ類やタラ、ラッコ、オットセイなどの海洋資源に恵まれており、古くは先史時代の頃から人びとが行き交う場所でした。

本展では、先史時代から現代までの千島列島に生きた人びとの暮らしを紹介します。



1. 鯨骨製の帯留め〔千島アイヌ/シュムシュ島出土〕

## ロシアの南進・日本の北進

18世紀になると、ロシア人がラッコ皮を、日本人がサケ・マスなどの海産物を求めて進出してきました。

以後、アイヌはロシア人や日本人に使役されるようになりました。また日露の対立は、アイヌ同士の往來を制限する結果になりました。



3. 蝦夷諸島精図〔寛政2(1790)年作成〕

## 北洋漁業の盛況

大正から昭和にかけての1920年代、千島列島周辺海域では、日本人によるサケ・マス漁やタラ漁などが活況となり、多くの出稼ぎ労働者でにぎわいました。



5. 浜デッキのサケ類の山  
〔シュムシュ島中川漁場にて〕

## アイヌと海

江戸時代頃には、南千島に北海道アイヌが、中部千島以北に千島アイヌがくらしていました。陸上資源に乏しい島での生活では、魚類や海獣類、海鳥類といった海洋資源の利用が欠かせませんでした。



2. 釣針〔北海道アイヌ/収集地 網走〕

## 近代の千島アイヌ

明治17(1884)年、千島アイヌは日本政府によって色丹島へ移され、そこで暮らしはじめました。

その頃のアイヌの文化は、開拓使や人類学者によって記録されています。



4. 鳥羽衣〔複製/  
千島アイヌ/収集地 釧路〕

## 終戦を終えて

昭和20(1945)年に終戦を迎え、千島列島はソ連によって実行支配されました。

日本では終戦直後から北方四島の領土返還運動が続けられ、今にいたっています。



6. 領土返還の署名運動(2008年6月)